

令和 6 年 5 月 22 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02563

研究課題名（和文）工業系女子のキャリア形成にみる職業教育の現代的課題

研究課題名（英文）Contemporary issues in vocational education in the career formation of Industrial Girls

研究代表者

尾川 満宏（Ogawa, Mitsuhiro）

広島大学・人間社会科学研究科（教）・准教授

研究者番号：30723366

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、工業分野における女性の働き方に関する政策動向と業界動向・施策を概観するとともに、工業系学校進学者や工業分野での生産労務工程に従事する女性へのインタビュー調査を実施し、彼女たちのキャリア形成の過程の一端を明らかにした。彼女たちの学校・学科選択や職業選択をめぐる経験、その語りからは、職業をめぐるジェンダー規範を再生産する側面と転換していく側面の両方が抽出できた。加えて、工業系女子には多様な学習経験やキャリアパターンがあり、彼女たちのリアリティは一様でない。今後はその多様性に着目しながら、ジェンダー視点から職業教育を論じる枠組みを提起していく必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、工業系女子という対象化を試みることで、従来十分に注目されてこなかったブルーカラー職に従事する女性のキャリア研究の可能性を開拓し、職業教育やキャリア支援に新たな視点を提起しようとしたことである。本研究の社会的意義は、上記の学術的意義を十全に発展させることができれば、ジェンダー・センシティブな工業教育のあり方や生産労務職の働き方を推進するための議論の土台を提供できるようになる点にある。

研究成果の概要（英文）：Based on an overview of policy trends and industry trends and policies regarding women's work in the industrial sector, this study conducted interviews with women who had entered industrial schools and were engaged in production labour processes in the industrial sector, in order to identify some aspects of their career development process. From their experiences and narratives surrounding their choice of school and department and their choice of occupation, we were able to extract both reproductive and transformative aspects of gender norms around occupation. In addition, industrial girls have diverse learning experiences and career patterns, and their reality is not uniform. In the future, it is necessary to raise a framework for discussing vocational education from a gender perspective, paying attention to this diversity.

研究分野：教育社会学

キーワード：工業系女子 職業教育 キャリア ジェンダー 進路選択

1. 研究開始当初の背景

今日、労働力不足や「一億総活躍社会」政策の文脈で、建設業や製造業に従事する女性が注目を集めている。彼女らは、一足早く市民権を得て、高学歴イメージとともに日本社会に浸透した「理系女子(リケジョ)」ではない。中等教育や中等後教育段階で工業教育を受け、技能職や生産工程の仕事に就く女性たちである。本研究は、工業系キャリアから“降りた”女性も含め、彼女らを「工業系女子」として概念化し、焦点を当てる。

工業系女子は、いまや各種の広告や漫画、企業や学校などのウェブサイトによく登場し、活潑なイメージ戦略の対象となっている。労働政策研究・研修機構(JILPT)の調査が明らかにしているように、建設・製造業界における「女性活躍推進」施策が進展し、優秀な工業高校女子生徒に対する労働市場からのニーズが高まっていることなどが、背景にあると考えられる(労働政策研究・研修機構『日本的高卒就職システムの現在』2018)。

ところが、職業的な学習やキャリア形成に関する彼女らの経験は、学術的にほとんど注目されず、知られていない。近年、新規高卒就職女性の2割強は工業系職種に就いている(文部科学省「学校基本調査」各年)。しかし、上述のイメージ戦略は、工業系キャリアと女性との間にある相変わらずの距離感をも示している。実際、ある工業高校の女子生徒によれば、専門科目の学習や職業選択の過程で、現場仕事が「女性向け」でないことを学んだという(尾川満宏「卒業生が語る高校職業教育」日本教育社会学会第70回大会、2018/9/4、佛教大学)。工業分野のキャリア研究の多くは男性を前提としてきたが、彼女らの経験を無視したままでは、政策や労働市場の今日的動向に対応した知見を得られない。

2. 研究の目的

以上から、本研究は次の「問い」をもとに研究を構想した。すなわち、工業系女子の学校生活や職業選択、職業生活において、職業教育カリキュラムや「教育と職業の関連性」は、どのように経験されているのか。また、それらの経験から見出される「女性活躍推進」下の工業教育の理論的・実践的な課題とは、いかなるものだろうか。これらについて調査・検討することを、本研究の目的とした。

3. 研究の方法

上記課題に取り組む本研究の対象は、生徒一般や労働者一般ではなく、工業高校や建設現場などで学び働く、時にマイノリティとしての女性である。あるいは、そうしたキャリアから離脱した女性である。それゆえ本研究は、質問紙調査によって全体の概括を目指すのではなく、インタビューを中心とした質的調査によって工業系女子の経験を丁寧に描き、その解釈を通じて「学校から職業への移行」をめぐる教育や各種指導の課題を見出すことを目指した。

しかし同時に、新奇な研究対象であるため、彼女らの間にある多様性を示すことも求められよう。そのため、一定数の調査協力を得てキャリア・パターンを類型化することや、複数の地域で調査を行うことを重要視しながら調査対象校・対象者を選定し、調査を実施した。その結果、2018年からのパイロット調査を含めて、18名の工業高校・工業系専門学校に学ぶ(学んだ)女性たち、および工業系職種に従事する女性たちと、8名の工業高校・工業系専門学校教員に対して、インタビュー調査を実施することができた。研究期間の大半が「コロナ禍」であったことに加え、研究対象の人々の一校当たり在籍者が多くない(女子生徒の在籍しない工業高校も多くある)ことから、必ずしも十分な調査協力者が得られたわけではない。とはいえ、女子生徒・学生が多く在学する学校学科で集中的に調査を行ったとしても当該学校・学科の特色と女子生徒の経験の特質との区別が困難になると予想し、本研究ではなるべく地域的に広範囲に、なるべく多くの学校に調査を依頼していった。その結果、やや西日本が中心となったが、全国各地で調査協力を得ることができ、多くの場合は学校経由で女子生徒・学生を紹介してもらった。

インタビュー調査では、各人60~90分程度の半構造化インタビューを原則個別に実施した。高校入学以後の経歴把握と、学校生活や職業選択、職業生活の経験(教師による指導や家族との相談、ジェンダー意識など)に焦点を当て、現在の職業生活や将来展望についても聞き取りを行った。

ただし、2020年度は新型コロナウイルスの感染の拡大・再拡大により、予定していたフィールドワーク調査やインタビュー調査がほとんど実施できなかった。また、2021年度は引き続きコロナと、加えて研究代表者の異動による研究体制の再確立のため、研究を進展させることが非常に困難であった。そうしたなかで当初の研究計画を期間内に完遂するのは不可能と判断し、研究期間を延長して可能な範囲での調査・分析を行った。その結果、下記の成果を得ることができた。

4. 研究成果

(1) 工業分野における女性の働き方に関する政策動向と業界動向・施策

女性活躍推進政策一般では担当大臣の設置や関係法令の整備が2010年代に勧められ、大企業を中心に、女性の積極的な採用・雇用・登用や、働き方改革の推進、職場風土の改善などが法的に求められ、情報公開や改善方策の提出なども義務づけられた。そうした法制度と同時並行的に、建設業・製造業などの各業界が独自に女性の積極的な活用や活躍を推進するための取組を進めてきた。そうした変化は高校就職指導の現場にも見て取れる。

加えて、メディアにおける「工業系女子」の描かれ方についても、限定的な検討を行った。近年では大手飲料メーカーや大手ゼネコンのテレビコマーシャルなどで、建設現場で活躍する女性が描かれている。そうした女性たちに焦点を当てた写真集やマンガでは、「土木女子(ドボジョ)」「成形女子」や「電工女子」など具体的な職種や業種と結びつけられた女性たちが、しかし「男勝り」というよりむしろ「フェミニン」に描かれ、表象されていることが示唆された。SNSの検討などから、おそらく、この10年のうちに工業系女子は日本社会のなかで概念的に誕生し、労働政策や労働市場で注目されるようになったと考えられる。

しかしながら、そうした表象や描写が求められる程度には、いまだ工業系職種と女性との間には距離があると一般的に考えられており、またそうした女性も少数派であるとも推察できるだろう。事実、工業高校や工業系キャリアに参入していった女性たちは、下で紹介するようにジェンダー化されたまなざしで見られてきた。そこで、彼女たちが工業系の学校・学科選択や職業選択をいかに経験してきたのかを、インタビュー調査から次のように明らかにした。

(2) 工業系女子の学校・学科選択

工業系カリキュラムを学ぶ生徒・学生に対する調査結果を分析し、工業系女子の学校・学科選択の経験を明らかにした。工業系カリキュラムに進学した女子生徒・女子学生たちは、さまざまな経緯・理由から学校選択、学科選択を行っていたが、周囲(とくに親や友人)からのジェンダー的視線にさらされつつも、比較的明確な職業希望を有して自身の進路選択を語っていた。と同時に、明確な職業希望や進学理由を語らねばならないこと、あるいは彼女たちがそうした語り方を獲得する過程は、依然として強固なジェンダー的磁場が存在していることを示唆しているものと考えられる。

そのほか、工業系専門学校に在学する女子学生は職業希望の形成が相対的に遅いことなどが明らかになった。事例的な調査結果ではあるものの、ここから、中等教育段階以降での職業への接触機会や情報収集が、工業系女子のキャリア形成においては重要な意味をもっていることが推察された。

他方、これまでの研究から、女子小中学生を対象とした「けんせつ小町見学会」(日本建設業連合会主催)など、より低年齢の段階から工業系女子キャリアに接触する機会は増加しているとも考えられる。女性にとって、イメージしうる業界・職種の幅を広げていくという観点から、こうした動向と女性の経験の関連性を検討する必要があるだろう。

(3) 工業系女子の職業選択

さらに、工業系女子たちの職業選択に関する分析からは、職業選択のバリエーションとしてストレート(適応:工業系学校 工業系職種) シフト1型(離脱:工業系学校 非工業系職種) シフト2型(参入:非工業系学校 工業系職種) その他(進学など)の諸類型を抽出した。そのうちストレート層に着目して彼女たちの仕事内容や職務をめぐるジェンダー語りを分析した結果、工業系キャリアの職務における女性の不利が語られることは少なくないが、同時に、職務の女性的な側面を取り上げる語りも明らかになった。こうした語り方は、これまで「男性向け」とされてきた職業イメージの転換可能性を示唆するが、しかし同時にジェンダー観それ自体を再生産する語りでもある。これらの事例が職業とジェンダーの関係再編にいかなる意義や意味をもつものなのか、そしてそのことは、今後の工業教育にいかなる影響を与えるのか、理論的な検討も進める必要がある。

(4) 総括と今後の課題

当初研究計画では、こうしたジェンダー視点から工業教育・職業教育の考察を行う予定であったが、前述のように研究期間全体を通じて、コロナ禍での調査遅滞や、研究代表者の研究機関異動など、研究体制の動揺と立て直しに四苦八苦した。それにより、職業教育に関する精緻な考察と実践的示唆に関しては十分に検討することができなかった。しかし、本研究の主眼である工業系女子の実態把握について、一定数の協力者を得てキャリアの多様性を把握することができた。とくに、工業高校や工業系専門学校、あるいは工科大に在学している生徒・学生や、そうした学校を卒業した後に初期キャリアを形成してきた若年女性の経験を調査するなかで、工業系キャリアをめぐる認識の形成過程や、進路希望・職業希望の形成過程におけるジェンダー経験を

把握し、いくつかの仮説的な論点を抽出することができた。この点は本研究課題の重要な成果であり、今後のジェンダーと職業教育の研究や、ジェンダー視点からのキャリア研究に示唆を与えるものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Mitsuhiro Ogawa, Qingyi Zhang, Yu Chen, Hiroyuki Yamada	4. 巻 118
2. 論文標題 From the reproduction of social class to the production of locality: Focusing on the narratives of young working class men in rural Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Educational Research	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ijer.2023.102155	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 尾川満宏・尾場友和	4. 巻 68
2. 論文標題 工業系女子のキャリア形成 学校学科選択の経験に着目して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教育学研究紀要（CD-ROM版）	6. 最初と最後の頁 354-359
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾川満宏	4. 巻 66
2. 論文標題 工業系女子とはだれか？：政策・業界動向と工業教育・職業選択をめぐる女性の経験	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛媛大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 尾川満宏・尾場友和
2. 発表標題 工業系女子の職業選択
3. 学会等名 中国四国教育学会第75回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 尾川満宏
2. 発表標題 工業系女子が語るブルーカラー労働
3. 学会等名 日本子ども社会学会第30回大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 尾川満宏・尾場友和
2. 発表標題 工業系女子のキャリア形成
3. 学会等名 中国四国教育学会第74回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 片山悠樹・尾川満宏・都島梨紗・上地香杜・岩脇千裕・児島功和・内田康弘
2. 発表標題 地方の女性におけるキャリア形成 - 専門学校生を事例に -
3. 学会等名 日本教育社会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 MITSUHIRO OGAWA
2. 発表標題 Women's experience in industrial career
3. 学会等名 The 25th Taiwan Forum on Sociology of Education (TASE) Annual Conference 2019年5月3日 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 尾川満宏
2. 発表標題 キャリア教育における「自立」・再考
3. 学会等名 日本特別活動学会第28回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

愛媛大学 最先端研究紹介 infinity 「大人になる」って、なんだろう？
https://www.ehime-u.ac.jp/data_study/data_study-103972/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	尾場 友和 (Oba Tomokazu) (50781374)	大阪商業大学・公共学部・准教授 (34410)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------